

項目別集計および自由記述の分類・要約

【問 1】議場での説明、議員との意見交換会の時間について

- 短かった: 11 票 (55.0%)
- ちょうどいい: 9 票 (45.0%)
- 長かった: 0 票 (0.0%)
- 無回答: 0 票 (0.0%)
- 合計: 20 票 (100.0%)

自由記述(理由・意見)の分類と要約

- 時間が足りない、もっと話したかった【9 件】
 - (要約)「意見交換が楽しく、時間が少なく感じた」「後半にみんなが意見をたくさん言うようになって、盛り上がったところで終わってしまった」「設定された 3 つのグループ(テーマ)すべてでお話したかった」など、対話の延長や全テーマへの参加を求める前向きな意見が多くを占めました。
- スムーズに進行した、ちょうどよかった【5 件】
 - (要約)「時間内での不満は特になかった」「進行がスムーズで、自分の意見をしっかり伝えることができた」と、運営の円滑さを評価する声がありました。
- 運営への要望【1 件】
 - (要約)「主に議員の方からの質問に答える形だったので、自分たちのほうからもより能動的に質問を問いかけたかった」という主体的な意見が見られました。

【問 2】今回の意見交換会で市政に対する興味を持てましたか。

- 持てた: 16 票 (80.0%)
- 少し持てた: 4 票 (20.0%)
- どちらともいえない: 0 票 (0.0%)
- 合計: 20 票 (100.0%)

自由記述(理由・意見)の分類と要約

- 政治や議会を身近に感じ、自分事になった【6 件】

- (要約)「今までは難しそうで関係ないものと思っていたが、実際に関わることで身近になった」「自分の住んでいる町の政治に参加したいと思えた」「自分の意見も取り入れてもらえる感じが嬉しかった」など、心理的距離の短縮が確認されました。
- **特定の行政テーマに関する現状理解・学び【5 件】**
 - (要約)「コミュニティバスの現状を知り、考えるきっかけになった」「高齢者サポートの課題について分かりやすく優しく教えてもらった」など、具体的施策への理解が深まりました。
- **その他(気付き・視点)【2 件】**
 - (要約)「議会は大がかりな問題だけかと思っていたが、毎日の小さな生活課題の解決にも目を向けていると感じた」「国会と同じようなルール・様式が多く、自分が政治の場にいるように感じた」という深い観察に基づく意見がありました。

【問 3】18 歳になればあなたは選挙に行きますか。

- 必ず行く: 18 票(90.0%)
- わからない: 2 票(10.0%)
- 行かない: 0 票(0.0%)
- 合計: 20 票(100.0%)

自由記述(理由・意見)の分類と要約

- **自分の 1 票の大切さ・主権者意識の実感【7 件】**
 - (要約)「自分の一票が政治の進化や変化に繋がると知った」「どれだけ 1 票に重みがあるのかを理解できた」「自分の希望を伝えるには投票するしかないと思った」など、主権者としての意識がダイレクトに芽生えています。
- **若者の投票率向上に対する危機感と使命感【3 件】**
 - (要約)「若者の投票率が少ないからこそ、1 人 1 人が行くことが大事」「若者が興味を持って投票することが、日本みんなが納得する政治に近づくと思う」という高い社会意識が示されました。
- **投票環境・利便性への課題指摘【2 件】**
 - (要約)「きちんと政治に参加すべきだが、投票所が遠いなどの課題もあると思う」「投票箱(投票所)は駅近くにほしい」といった、若者ならではのリアルな環境改善への要望が挙げられました。

2. 全体感想(問 4)における印象の変化と今後の行動

問 4「議員との意見交換会についての感想」では、生徒たちの驚きや心の変化、そして今後の主体的行動への決意が強く滲み出る記述が多数見られました。

- **議員へのイメージ刷新(堅苦しい・怖い ⇒ フレンドリー・優しい)【9 件】**
 - (要約)「もっと関わりやすく怖い人たちだと思っていたが、とてもフレンドリーで優しかった」「最初はすごく緊張したが、ほんわかした雰囲気、気軽に相談してもいいのだと政治に対するハードルが下がった」と、対話を通じて強固な信頼関係が構築されました。
- **今後の主体的行動(情報収集や学びの継続)【3 件】**
 - (要約)「これからは新聞やニュース、地域の広報紙などを積極的に読んで、自分から政治に触れる機会を増やしたい」「この経験をもとに色々と成長したい」といった、開催後も続く学習意欲の向上が見られました。
- **特定のプレゼンテーションへの関心【1 件】**
 - (要約)「AI(人工知能)を知ったプレゼンテーションがあったことが一番印象的だった。人工知能の発展は素晴らしいことで、政治が能率的な意見を与えてくれると思う」という、DX や技術活用に関心を寄せる声もありました。

3. 参加生徒からの具体的な政策・運営提案

単なる感想に留まらず、市政や今後の広聴活動に極めて有益な、生徒独自の主体的な提案が 4 件なされました。今後の市議会の取り組みにおいて大いに参考とすべき内容です。

- **提案①: 生徒会組織との連携による広聴の仕組み化**

「各校の生徒会などで生徒に意見を聞いて、それを議員さんに定期的に報告するような場を設けてみても楽しいかなと思います」
- **提案②: デジタル媒体(YouTube)を活用した市政広報**

「コミュニティバスについて、議会が YouTube でバスの宣伝をすればより宣伝性(効果)があると思います」

- **提案③:地域掲示板の有効活用**

「もっと地域との関係を良くしたらいいと思いました。地域の掲示板を有効活用すればいいと思います」

- **提案④:公共交通機関(バス)の運行利便性向上へのリアルな要望**

「JR 運休時は、JR 曾根駅から山陽曾根駅間のバスを午後 7 時ごろまで走らせてほしい(意見交換会中に発言を逃したため紙面にて主張)」

4.総括

1. **開催継続と時間設定の再検討**「短かった(11 名)」「もっと話したかった(9 件)」というポジティブな反響を真摯に受け止め、次回は意見交換の正味時間を拡大するか、テーマ数を絞る、あるいは複数回に分けるなどの開催形態を検討されたい。
2. **主権者教育としての高い教育効果**「選挙に必ず行く」が 9 割(18 名)に達し、「1 票の重みを実感した(7 件)」という結果は、本事業が極めて実効性の高い主権者教育の場として機能している証左である。教育委員会や市内各校と連携を深め、より多くの生徒が参加できる体制づくりが望まれる。
3. **若者の提言の具現化** 生徒から出された「生徒会との連携」「YouTube 活用」「駅前投票所」「JR 運休時のバス連携」といった鋭い視点は、単なるこどもの意見として片付けるべきではない。関係部局や委員会に速やかに共有し、市政・議会改革の文脈で検討に値するものである。